



白雲庵 十一 十一

梅復 以東の道に當り

著者 梅読 非常の感

概 小 藍身 此 中 小 先

以 商 之 婦 之 國 係 深 也

大 阪 之 地 之 存 之 之 商 也

婦 之 流 之 魚 之 之 如 也

書 如 此 了 之 之 丹 矣 也

めいしん

書かれたこの冊子を

著しく在人に紹介する

の便にと相成るは最

も愉快と云ふ可く有之

ふせに著者名に於て

二十年前に恩師が

その途の在路を如何

に記されしを詳述し

且つ周知せよ 著者の

師友が今や同じ

目的と爲るは

たつたあつたことを知

三月、女、三、三、三

非常の愉快を感

之由、小、大、は、満、腹、

満、腹、と、い、う、高、興、

今、始、ま、り、ま、ま、ま、

天、然、と、い、う、こ、

新、し、く、飛、ぶ、鳥、

上、の、空、を、飛、ぶ、鳥、

、海、を、飛、ぶ、鳥、

海、を、飛、ぶ、鳥、

日

海

六日

張方和

福里董子村

副執事 都北新南

以是附于 子了新

初新介 子了新

子了新

明治三十七年五月六日

大阪市北區中之島三丁目

村山合名大阪朝日新聞會社

三宅 股名

71
6204
141

電話番號

東 壹壹四九番 長距離專用
東 壹五八四番 長距離專用
東 參九七參番 編輯部

東 貳參〇番 營業部
東 壹九八番 同
東 七九四番 編輯部